

SS-Lecture 第6回講座

「薬はどうして効くの？」

平成26年12月20日(土)、群馬大学生体調節研究所から、所長である岡島史和先生をお招きして、「薬はどうして効くの?～タバコ成分ニコチンにまつわる話; 癌、サリンから蜂の失踪まで～」と題した講演をいただきました。

まずはじめに、「生体調節研究所」についての説明をいただきました。群馬県は海なし県であることから、昔は海藻を食べる頻度が少なく、栄養バランスを崩していた人がたくさんいたそうです。このことから生じる内分泌機構の不調の研究を始めたのが、前身である内分泌研究所だったということです。

本題では、生体の調節機構について詳しくお話しいただいた後、薬が効くとはどういうことなのか、神経系や内分泌系のはたらきに照らし合わせて説明をしていただきました。そして、タバコを例に挙げ、その成分であるニコチンの生体への作用と発がん性との因果関係についてお話をいただきました。さらに、サリンなどの神経毒の作用とアルツハイマー型認知症の治療薬や農薬との関連性について説明していただきました。

このようなお話から、神経毒の作用と、神経伝達にかかわる病気の薬の作用は同じ機構ではたらくことを、科学的に理解することができました。

